

類繪
類繪

万宝夏一書大成

初八
歌之校百三十七首
目録也



[illegible]

寄屋	紅梅	松竹	茶室	雲	落葉	明石	紅葉
あまや	竹川	花鳥	梅枝	常夏	鶴の	深瀬	花鳥
浮船	松林	夕陽	菊	乙女	重宝	空海	空海
龍吟	雄牛	佛法	菊花	野分	玉露	黒山	林
名器	南窓	釣	同下	新卒	秋風	雄合	名器
名器	名器	名器	名器	名器	名器	名器	名器

ぢ
ぢ
ん
ぢ

持統天皇

春

夏子元

白ちやう逢

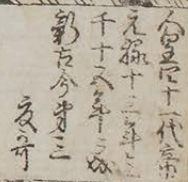
お

家

五

朱まの

か



わひあふふしりぬ
の書めとあらうけ
にもゆきまゝ自にまて
とやいれまゝこゝろあり
あり書と誤女よふ
美と雷生とのみく機
と織女の面(張)女をな
又織服ともつて其年
を以ておある(土)生に
てかゝる(山)生ともつ

セク^{セク}ま^まつ^つの^のお^おま^まり^り

應と云ふのめ^ち常々^{つね}意^い乃^の
 衆と云ふ^{しゆ}礼^{れい}如^{じゆ}子^しと^と

星のひそく

とてなむにさても
さめにいとせむらづ

東のていど

能宣

いどく
れみけぬ
る

とれ乃種よ

七夕れ^とるな

や乃夢よ
と秋とと
子の玉と



A circular diagram showing a cross-section of a landscape. On the left, a hill rises from a body of water. The hill is divided into several horizontal layers, suggesting different geological strata. The water is represented by wavy lines. The entire scene is enclosed within a circular border.

万葉のむくひと
 抄本入麿

あま

中

ねじ

李

...

10

46

...



元禄十三年
十二月

拾遺身之冬

[illegible]

やまのあひと
さくら
うらなふに
うらなふに
うらなふに
うらなふに
うらなふに
うらなふに



人丸と同下

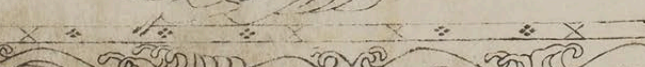


新古今和歌集

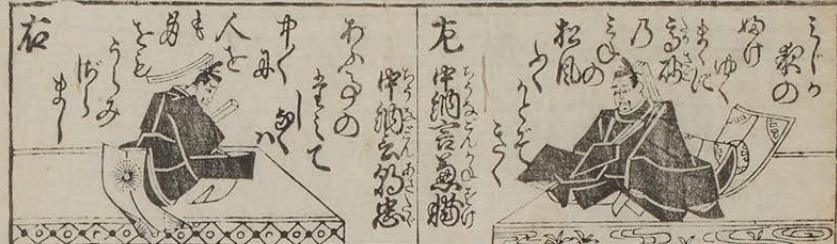
いづれもろだ ゆふ
猿丸大吏
おや 心算
奥山
ゆめ
さく
あし
の
あき
あき
あき
あき



時代人丸月一



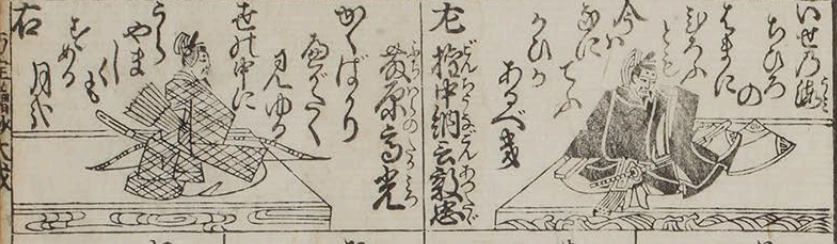
古今集卷六秋



左 仲納言 忠勝
 右 月見
 中 人
 上 月見
 下 月見
 左 仲納言 忠勝
 右 月見
 中 人
 上 月見
 下 月見



左 仲納言 忠勝
 右 月見
 中 人
 上 月見
 下 月見



左 仲納言 忠勝
 右 月見
 中 人
 上 月見
 下 月見



左 仲納言 忠勝
 右 月見
 中 人
 上 月見
 下 月見

[illegible]

わづの月ひきよ
をうりれわを
つた 井代乃
うゝゝゝん

うゝゝゝん
お太夫
このくぐれ
あまの ゑぢりの
とろあ とろあ
はういふな

[illegible][illegible]

A black and white illustration of a woman in traditional Japanese court dress (kimonos) kneeling in a landscape. She is holding a fan (sensu) and looking towards the left. The scene is framed by a decorative border, and the background features stylized clouds and a large rock formation.

姓小野 名太 坂野 相
 と云 翁 和 三年 十二月
 五月 己未 の 子 子 祇 流
 と云 國 七 日 月 月 日
 久 され 六月 日 日 日
 へ くの 日 日 日 日 日

元禄 五年 乙
 八月 廿七 日 日 日

仁 方
 二年
 十月
 廿日
 初日
 五十
 蔵

古今 今 九 露 張 可

へ道大いふらん
 へりか川あ
 あまのまろ
 まに種ぬきを
 あまのまろ
 大いふらん
 あまのまろ
 へりか川あ
 まに種ぬきを
 あまのまろ
 へりか川あ
 まに種ぬきを
 あまのまろ

そうさうるんぜう
 僧心通眼
 西女
 下津風雲
 かみ
 吹
 し女の
 赤
 と免お

元禄十三年
八百七十八
今月十七
雜考

[illegible]

陽成院 やうせい
はるねの

先福十二卷之
八百四十三成

老
源宗子 右后
源信明 右后
とありさな
とあり
あつらん
そと
あよ
ひの
月と
義見
右めや

老
源宗子 右后
源信明 右后
とありさな
とあり
あつらん
そと
あよ
ひの
月と
義見
右めや

川中
船岡法師
おれは
人をもて
いふことば
いへるやう
秋の心親まに傳
古れあひの
ちがりの
むづか
く秋ひて

みかたの
とひ
ふち
と
て
り
る

後推穿十七處可

右まゝ



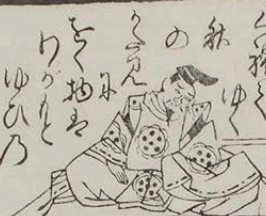
ふん

人
心



古今十八雜考

まゝ



卷之四



時代よりいへど
かあど
おれ今中上

卷之四

Two panels of a Japanese woodblock print. The left panel shows a woman in a kimono sitting on a tatami floor, looking towards the right. The right panel shows a man in a kimono sitting on a tatami floor, looking towards the left. Both panels have vertical text labels above them.

米森溪遊記
 古たれのやうな秋
 明きくくと
 秋の二夜や
 今にわきまは
 美忠
 まねての
 らざり
 ききぞ
 めくらわ
 とらひの月ぞ
 秋とてぬ
 らざりや
 まね
 うい
 ひとみ
 らぬん
 あまの
 かり
 ああ
 月ぞ
 ぞ
 ぞ

負債公
 小倉山
 心あふ
 いまひ
 御幸
 ぬの
 ぬの

元禄十三年乙
七月十八日
難考

Two panels from a Japanese woodblock print. The left panel shows a woman in a kimono sitting and holding a fan, with a small child beside her. The right panel shows a woman in a kimono sitting and holding a fan, with a small child beside her. Both panels have vertical text labels.

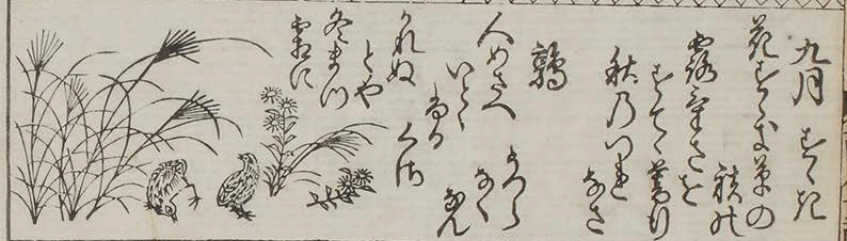
中納言無痛
みの原
なす
いざ見
いづ
あつらん

光緒十三年乙
巳百八十九夜



刻於今宵一葉舟

古今中外

[illegible]

清原深長
あつ
夏は
まご
あけ
あけ
あけ
あけ
あけ



A portrait of Minamoto no Yoritomo, the first shogun of the Kamakura shogunate. He is depicted from the chest up, wearing traditional Japanese court attire (kariginu) and a distinctive headpiece (kanmuri). He has a serious expression and a mustache.



古今考索

元祿十三年
六月二十九日

Two panels from a Japanese woodblock print. The left panel shows a figure in a patterned kimono sitting on a tatami floor, with a small table holding a bowl. The right panel shows a figure in a patterned kimono sitting on a tatami floor, with a small table holding a bowl. Both panels have vertical text labels above them.



文屋胡康

志
風
の
丹

秋の
 の



野々

玉子
 ちりすう



元祐十三年
七月八日

煖撰中六秋寄

右今集序に云く
いぬよりわくは
を海内にも知れ
みりぬ時よりぞ
ひあまうたうの
やんやうあむと
あうやうたう
ぬ時におうたう
うわあまのうの
九めんうこけひ
ありたう又やま
はあうたうあま
たりうたうあま
うあまうたう
あまのうたう
うたうあま
九うたうあま
うたうあま

冬の月には雪
 霜の 多し
 枝乃 葉くつぬ
 葉を まつろ
 子鳥
 りとりあへ
 かきあふ
 沼津に
 雪の月
 印の
 ふあひ
 の神

[illegible]

拾遺第十卷

卒

橘公光
そ
も
と
月夜に
久々の
あまのこ
雪乃
あづきぬき
あづきの あつひ
山崎赤人
まの野鳥
さめつ
や
う我ぞ
あ
ひとよ
秘伝
たり

[illegible]

わさちふ乃
よめ
おれ
あふ
おま
何もうそ
人のりま



後撰中興集

卷之四

青
 川竹乃葉うーれ
 ろにまうふふふのを
 ぬれよりうわひひ
 青
 けりうに葉のふくはれ
 りりてこりひの葉の
 あふぞこころふ
 青
 ふれつう雲も同類
 ふそめられて紅葉
 とちふに葉のこがレ
 白
 白雲のふくふくふの
 ふれそふふふつふふ
 けりふふふ
 青
 ひとまのふふふつふ
 うとふれとふれてふひ
 ふれふのふふふ
 〇ふふふふふふ
 青
 ふとふふふのふふふ

時代おに

年氣盛

馬子あ種こ上こ

一

字

三

もろ

人乃天

核送外一照齊

壬生忠見

無事

皇
后
上

志

立

之

人

ねん
ろく
し
ろ

拾遺書上卷

光緒十三年
七月廿四日

秋の
み

あれを

ありと風

文苑

文

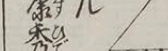
るの
むの

人の

卷之六

あり
家

小同


乃披そちりや
 火
 あうれおのたふさふさ
 くの松のたけひうと
 送つ契りなりや
 土
 見ればありけりやと
 らはわらひのつら
 すとあまうよりのうさ
 金
 おおさて月ひかり
 ん風のうらけおの林
 ぬつ煙のととふ
 水
 乃弟おれおのあつこの
 おはかりぬつぬれ
 来のちうめと
 〇 乃弟おれおのあつこの
 仁
 越てゆくことふさふさ
 立国おれおのあつこの
 ち月うとと



人とかいひのこゝろ
やういふいふと
さういふいふと
れ
竹の葉を折る人
うてよととと
人をはひとめ
智
たーあつたひまれ
あつたひまれ
ととととととと
信
小車に載せられ
せまうこれととと
たうありたり
○士族にあつた
はつとととと
中ととととと
らととととと
ありたり
月んとととと
ゆん
ぬ
あつた
一ぬふ



人とかいひのこゝろ
やういふいふと
さういふいふと
れ
竹の葉を折る人
うてよととと
人をはひとめ
智
たーあつたひまれ
あつたひまれ
ととととととと
信
小車に載せられ
せまうこれととと
たうありたり
○士族にあつた
はつとととと
中ととととと
らととととと
ありたり
月んとととと
ゆん
ぬ
あつた
一ぬふ



え禄十三歳と
五百八十八歳
後拾遺才
葉



人とかいひのこゝろ
やういふいふと
さういふいふと
れ
竹の葉を折る人
うてよととと
人をはひとめ
智
たーあつたひまれ
あつたひまれ
ととととととと
信
小車に載せられ
せまうこれととと
たうありたり
○士族にあつた
はつとととと
中ととととと
らととととと
ありたり
月んとととと
ゆん
ぬ
あつた
一ぬふ



人とかいひのこゝろ
やういふいふと
さういふいふと
れ
竹の葉を折る人
うてよととと
人をはひとめ
智
たーあつたひまれ
あつたひまれ
ととととととと
信
小車に載せられ
せまうこれととと
たうありたり
○士族にあつた
はつとととと
中ととととと
らととととと
ありたり
月んとととと
ゆん
ぬ
あつた
一ぬふ



え禄十三歳と
五百八十八歳
後拾遺才
葉

源氏物語

はゆ後ハ二条院乃
 宮上東門内乃
 ことさじやゆりた
 虎孫をあらはせ
 式部卿の御方られ
 石よりていふと
 移りたるは八月十
 日の月明かりに
 かのとてさうり
 先とあわすれあ
 とゆりしよりい
 もむにうひひかり
 さらなることあり
 幸ひ今敷は八月十
 日ありとありき
 家の代ありと
 ひろゆきとすの
 氏七歳の月さう
 けりめあつと



ちうかさんあさた
 中酒を好む

あすも乃

そえて

あに

人をも

うんけ

拾遺書



時代教

福徳公

叙

人

も

ほえ

あり

元禄十二年

七百



拾遺書

[illegible]

〆 柳をゆそれて
 しむらゝとあり
 つまらぬーめんあ
 あり。もつむとも
 てあそびうひひち
 んぢうもつむご
 ゆいさりの目ご
 とはとひべさりの
 あれぞその法に
 さとあるひ時着
 むらてびつとあ
 るげませるのう
 とやうーめんあ
 あり。抱いてせ
 ねのたまやにな
 つげなうん先祖
 のまつりいふうぬ
 おれたとこあふ
 だあれだ。あとい
 さうくーめん乃
 さけうとまりで。
 たらぬことどう
 がいーさあまみ
 くまうとをつ

鳴鶴

子

あはれ

とみ
まの
み
れ

新古今第十一

卷之五

光緒十三年
七月廿五日



あまのつね

い
ち
ぢ

中

天

人
財
財

秋

元祐中三事
七百九百



拾遺文三秋寄

田々うか
 よりてそ
 まれも
 足ぬあ
 尊たは
 母のく
 足あふ
 たのめ
 うけ
 立若ひさえ
 ゐふほと
 の間きも
 いん
 ひち
 移わ
 映(の)び
 あき
 おまほむむ
 毎つーこ
 りも
 かに
 なあ
 をあて
 なる
 神よ
 あしえ

して梵經をもち
らうめんじつとち
一ゆふん。ふく
のひにびりあはぬ女
人のつひにふくあま
なむことなりて乳
膝のふくまふれど
一へたればはまれお
とそのもろけふこ
のさわうをあー
とてあめりのこ
いけあまの時より
けしん城をけ
めたとあらばやが
きのとほりてはち
尤もちうりあり
ぞけりるくはふ
あゝてゆくとき
さうえぬなる。あ
はてふはれうひ
はむかるとははめ
あまのたまふて
つあはれはひひ
ゆるぐを兒のふ

七紅糸女
物思ふ心
あはれ
まづ
何ゆゑ
神身の
心をや
八雲のえ
いぢきと
魔のやうな
むす
こころ
風も
お花

九あつひ
くちをたれ
ふしの屋に
みぎの
おひやく
そふ
それ
その
人

[illegible]

源

風土記

卷八

卷七



東坡先生

光緒十三年
七月二十日

詞苑中七無字

太中石橋宣經

み
うさり
御
あ
い

海

大のき

報

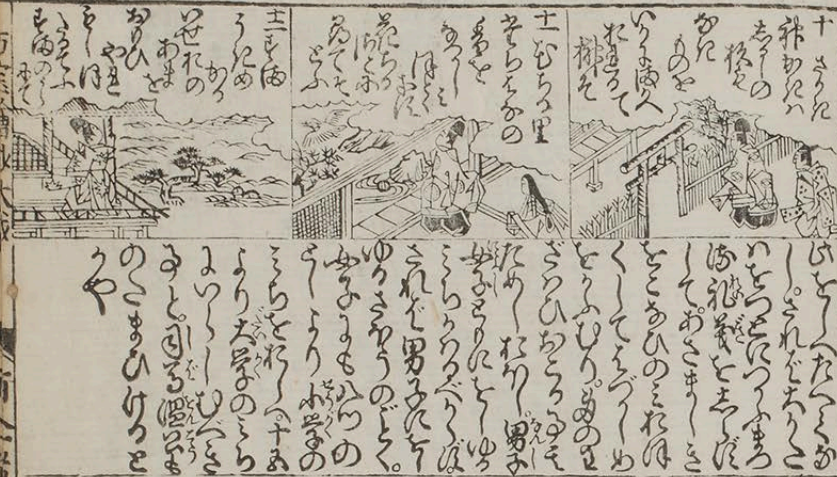
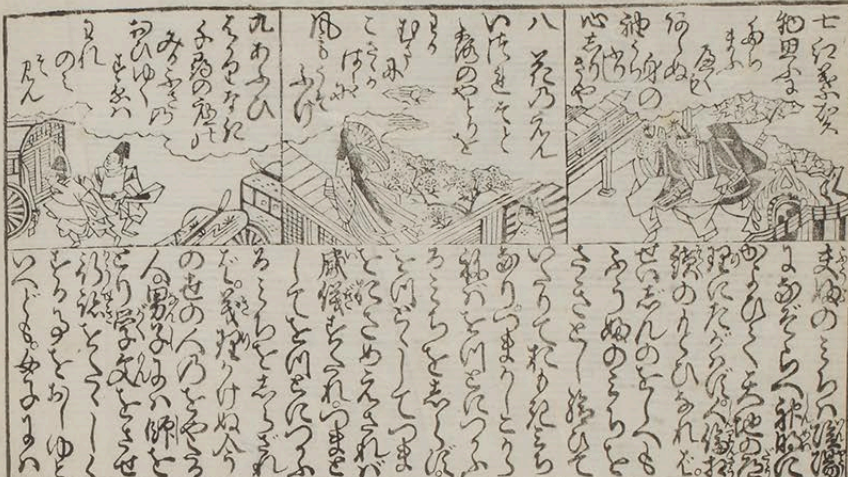
てえ

吟

物と云ふ

光祿十二年
七月九日戌

銅元才七懸示



それぢつとく
ふいつゝあまの心
あつとてうらな
陰陽どあく（陰）
あつとて男（陽）女（陰）あ
まをひもいふあ
どりば陽（陽）つよ
く陰（陰）やうちあ
わかれを男（陽）つよ
ことなつて女（陰）
やうちあつとて
はひゆへにむし
うのそとにむし

君のきあ

〇〇
 〇〇

奈人 いぢぢ

あゝ

畏 疑

多

拾遺中十二卷

元祿十三年
七月九日



関あれ
志きた
あぐたの
中

十七
壬辰命
うにめ
の
おろ
ふ
ま
る
と
い
は
れ
し
に
あ
ら
わ
せ
り

式松風
身をくた
ひきま
かへさう
燗かきま
はじけ
あほう
松風
あふ

も、お母さん、お父さん、
うめ、のどろ、あね、女
とて、うまに、福ずき
のどろ、あね、女、
さう、のどろ、あん
とて、どぞ、ねえ、
とのり。あう、女
の福ずき、のどろ
物とおされて、さ
のどろ、たけ、れ
よう、ん、とて、
らひ、ゆ、を、のどろ
され、女、のどろ
あつ、のどろ、
さう、のどろ、
さう、のどろ、
さう、のどろ、
さう、のどろ、
さう、のどろ、

如也

名

卷之五

五

之

も

七

高麗

光緒十三年
七月二十日

後拾遺才十一

雲所



[illegible][illegible]

ちのみのぢやあそん
故原道伝の巻

明
堂
氏

物と人

卷之八

六

うゑま

あまのう

元禄十三年在
六百九十三
改拾遺書十二卷

うだいしゅうみらくのそと
有為道徳母

おけき

知

あ

子

あ
ひさ

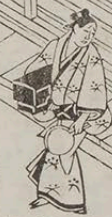
物
六
家

光緒十三年之
七百九十三號

五 擴達 牙十位 惡牙

[illegible]

けいひとありつ
 ぬいどそれつ
 しむいふふふ
 らぞわ

[illegible]

儀同母

乃

22

ま

字

三

ち

38



元祿十三年
七月十年

重刊今世土二卷

大納言 大納言

流るる
 へ

卷之六

子

三

卷

於

五

今



七百十白二版

千載集卷之六
雜記

[illegible]

和泉式部

わきん

六の金

か
れ

石人

三

あはれ

那



元禄十三
七百十
後拾遺

卷之四

焚くわひて

乃

之

素

三

乃

月
氣



細十二頁
七百十卷二
葉五今分十五
雜序



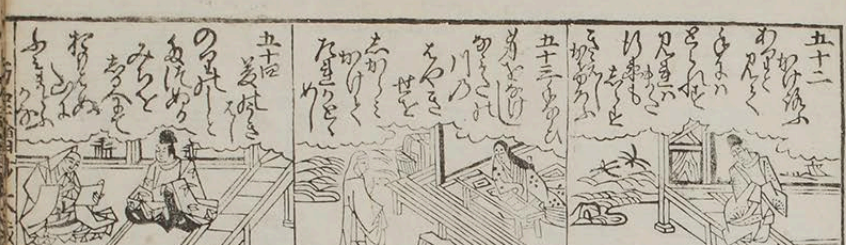
五十九節より
 やりて
 おもひ
 この世
 いふも
 かな
 五十節より
 うさぎ
 むらや
 あつた
 何もの
 あま
 五十一節より
 あつた
 何もの
 あま
 五十二節より
 あつた
 何もの
 あま

清か納言
 夜を
 夢を
 けふ
 夢を
 夢を
 夢を



後拾遺第十六
 雑

時代同前



五十二節より
 あつた
 何もの
 あま
 五十三節より
 あつた
 何もの
 あま
 五十四節より
 あつた
 何もの
 あま
 五十五節より
 あつた
 何もの
 あま

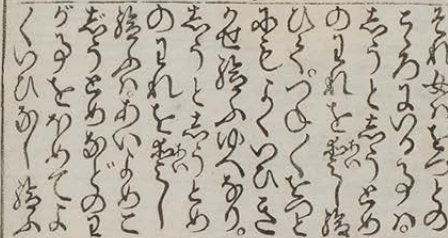
人
 夢を
 夢を
 夢を
 夢を
 夢を



金禄十三
 八百十年

後拾遺第十三
 雑

それ等仙國の源氏國
あどひはしらのやう
ぞ物り多ふされし國
とぞとぞうまの聲
うゑのまわさるゑ
かりけうゑうゑ
さくよほじにわさ
の國をばあとも海
し今をたりと
そまうそより物
かのふれ材にそ
らへ十六様の貝を
つむととひく
教とらあそふや
只ひみ付くあ
とふ仙國と名付
仙國におなり
とあちのあり



何處のうとせま
 のまてうとせま
 ぞうとせま

まゝのひまわり
 ぐんぐん
 されわまのちひな
 りく漢土はく
 菜あぐんつひり
 ゆてうてふふ
 ひうこまて
 産とや

あふまけり奥あ

停勢の涵乃

入江のまは

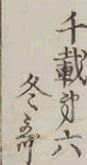
ひろ
あま
わさの

あまはもやうのふと
つげうろ國のふとに
せうがふとてふと
ふひぐーやうな
とふとてふとの

おめがねのひら
だれとめとのむ
まがふとあまのひ
りとてふとてふと

ゆつゝ。あつゝ。ばふ
とく。めい。く。あ
つ。ち。こ。ま。さ。な
あ。つ。く。て。
ら。ち。やう。ひ。つ。ち
や。う。に。せ。う。の。あ
わ。さ。ち。やう。ち。
ろ。う。て。お。も。は。な
二。人。の。さ。う。は。れ
た。し。た。と。ち。ひ。て
つ。の。じ。ん。だ。を
え。い。さん。ち。り
あ。な。ゆ。う。ち。
ら。ち。やう。ち。ひ。
そ。て。め。い。て。び
と。あ。な。て。ま。だ
と。り。む。う。ぐ。と
く。め。だ。て。ん。
史。の。に。う。あ。ひ。ほ
る。と。と。あ。い。ん
ど。う。も。その。趣
が。と。安。て。う。と
に。竹。々。へ。い。じ。也
孔子。の。け。ず。み。貌

濃 の
 の
 網 あみ
 糸 いと



同六百年余

相換さかひかへ

天

海

神そとふ

あな物

無子

名^かね



後指迂惑矣

花一番とれ貝

浪くみ

吹上り

そこれ貝

風りそこれ貝

いそこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝



どういふうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

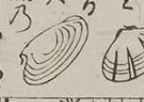
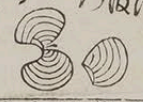
あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝



女務方終

女務方終

女務方終

女務方終

女務方終

女務方終

女務方終

三條院

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

元禄十三年と
六百五十五



あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

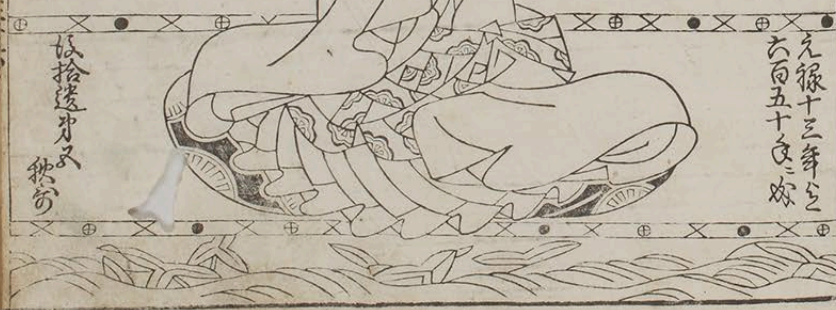
あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

あこれ貝

元禄十三年と
六百五十五



た七津貝

あは

海老

た

み

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

た七津貝

あは

海老

た

み

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

た七津貝

あは

海老

た

み

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

天にひて見
 目より浦に
 是のまはそ
 衆をてし
 後金加
 天にひて見
 目より浦に
 是のまはそ
 衆をてし
 後金加

天にひて見
 目より浦に
 是のまはそ
 衆をてし
 後金加

青め
 ま
 の
 あ
 う
 ね
 子
 用
 親
 家
 紀
 屋



元禄十二年
 八百十二
 金武弟八

天にひて見
 目より浦に
 是のまはそ
 衆をてし
 後金加

天にひて見
 目より浦に
 是のまはそ
 衆をてし
 後金加

青め
 ま
 の
 あ
 う
 ね
 子
 用
 親
 家
 紀
 屋



元禄十二年
 八百十二
 金武弟八

在支明淨圓

海國圖志
卷之十一
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

不

書懷一首 八月廿六日
程氏子允配示 弟
御 口拾六歲

[illegible]

▲ふれといふもこのあ
めうりいせさのな
ふと一ふれわ
てめうらゐせな
風
▲ふれといふれえん
ふれふれうら
ふれうらてん
うらふれのうら
ふれあふれふれ
ふれふれ
▲月のまへにあらは
ふれむとつくふれ

[illegible]

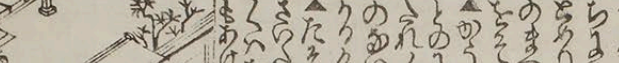
あつたむ
心も
くろく
みづから
物を
おん
待賢院



千載奇十三

元禄十三通
五百四年

風くるわわたりりふ
 さこそぞうらふとつ
 こぞく
 ▲ちやうどいそめち
 ちにはるあんちうと
 ちありぬらうりん
 のまへは六月のうび
 とぞこ
 ▲ゆうとこんのやそ
 とのよこぞとむひ
 くれくちぬる月よ
 のあいのうとこひ
 うらたんーの大お
 ▲たそやば衆中に
 さのちうりてこつ
 くれたくとこよ
 まあのとーよひのや

[illegible]

後醍醐天皇
 御成吉思汗
 大元皇帝
 如朕
 面心
 まは
 そく有^{あり}
 の
 存^ぞ
 の
 様^{よう}



光緒十三年
夏五月十日

千載守三友

氣古今又秋

一、あつちのゆめさ
 めてあつちのゆめさ
 ひのあつちのゆめさ
 ありいとわいふてた
 ころん
 ▲秋のよめあつちのゆめ
 ありいとわいふてた
 ころん
 ▲秋のよめあつちのゆめ
 ありいとわいふてた
 ころん

二、あつちのゆめさ
 めてあつちのゆめさ
 ひのあつちのゆめさ
 ありいとわいふてた
 ころん
 ▲秋のよめあつちのゆめ
 ありいとわいふてた
 ころん
 ▲秋のよめあつちのゆめ
 ありいとわいふてた
 ころん

二條院
 我神
 沖の石
 人
 かり



元禄十二年
 五百四十五
 千載才十二

一、あつちのゆめさ
 めてあつちのゆめさ
 ひのあつちのゆめさ
 ありいとわいふてた
 ころん
 ▲秋のよめあつちのゆめ
 ありいとわいふてた
 ころん
 ▲秋のよめあつちのゆめ
 ありいとわいふてた
 ころん

二、あつちのゆめさ
 めてあつちのゆめさ
 ひのあつちのゆめさ
 ありいとわいふてた
 ころん
 ▲秋のよめあつちのゆめ
 ありいとわいふてた
 ころん
 ▲秋のよめあつちのゆめ
 ありいとわいふてた
 ころん

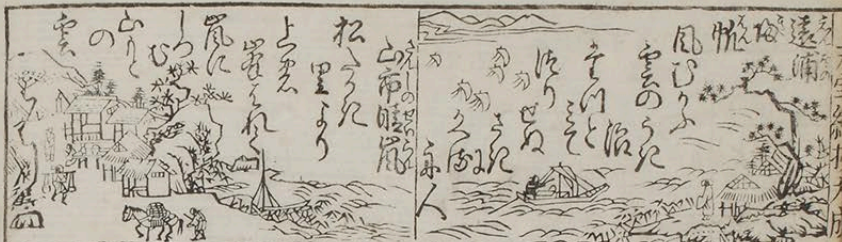
二條院
 我神
 沖の石
 人
 かり



元禄十二年
 五百四十五
 千載才十二

元禄十三年乙
丑五月二十二日
新勅撰卷十三
五



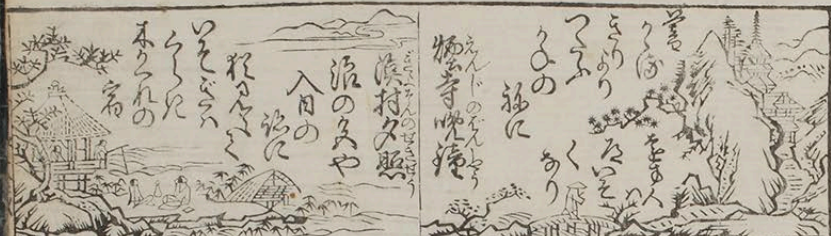


てふは、^後は、まゝ、う
るゑと、^八根の、うち
は、あつち、むぐ
の、くち、を、さう、か
女の、あつち、と、あり
ふり、この、ぬの
らう、と、や、う、け、目
は、ん、こ、れ、鬼、神、と
あら、れ、と、あり、せ、ほ
と、ろ、人、ども、奇、の
漸、と、て、め、とな、を
くら、い、う、一、わ、一
女、と、た、奇、と、よ
と、あ、ひ、あ、つ、ち、
見、あ、つ、ち、あ、つ、ち、
と、と、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、と、う、の、び、や、こ
しく、^懸に、あり、な
あ、と、の、あれ、が、そ
の、女、男、も、ん、う、ど
ほ、ま、う、さ、う、の、く、こ
お、び、り、せ、の、あ、つ、ち
う、い、い、あ、つ、ち、あ

正徳家隆
 風流
 小川
 文常
 みる
 あり



光祿十三卷
又百四十卷



ありじうゝわろ男
日々妻と見んとそ
外の女にわろひろ
と妻あさうに秘と
ひんあくとめと
ひささひあつとと
麻のあくと同て
日れと妻あさうと
人はあつたれ今
こそそを女あつと
とりとろくと男あ
けよりとてうと
つとあつたれとひ
てそのつとあつた
どりの妻と見
どろにわろひろと
あり又わろのそ
わろ女とてうと
の極とありて女
ひよりとて門乃
と人となつたろと
わろのそらんとて
のそあくととりて
わろ又とてうと

後鳥羽院
人もの
うもの
あらに
世に
物もの
もの



金八十二代帝
元祐十三年
五百十七

とあがめん
とぬらうさんとら
てむせつうされ
たれをきりあ
ど
いつつゝのふとをま
ねきのやにふんち
またのめれいそ
とをあやううたれ
ばねねさうく若
しめ家と月な
はて月廿られうに
振京原をばあ
ありううそのち
あんつとことうん
振京このまあと
あさううううは
よりとをばいめ
て振のきうあこ
つて女をうう
なうすと後下
さうのうううら
わうもあひひら
ありけうとうマ

順德院

夏友

名記

の
う
へ

志

行
 何

びん



金八十四代帝

元祿十三年
四月九日
續後撰

近江八景

廣徳寺
 小舟
 の
 あれ
 美須
 ゆつりく
 又凡と
 名ふ
 り
 雲

[illegible]

A woodblock print illustration from a Japanese book. It depicts a scene with a boat on the water, a large building on the right, and several figures. The text is written in Japanese characters, including 'やしろ' (Yashiro) and 'やしろ' (Yashiro).

寶永四歲

亥三月吉

伊賀屋弥兵衛

大坂心齋橋佐助順慶町

柏板溪石齋

